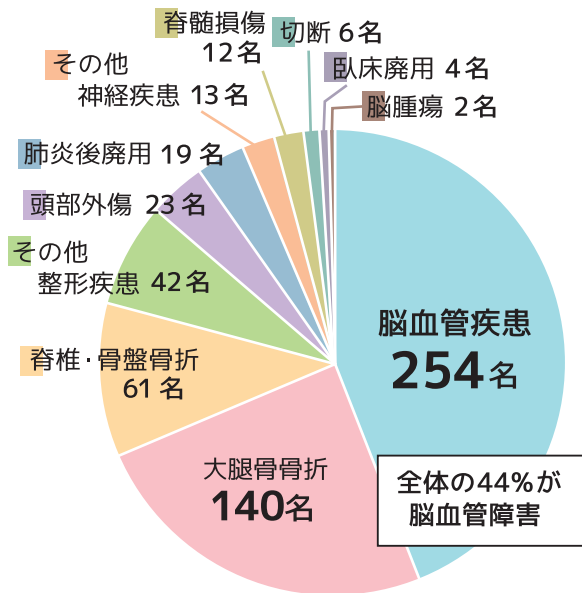


統計データのご紹介

2023年1月～12月の患者さんのデータをご紹介します。

※ この統計は2023年の退院患者さん全体の傾向であり、すべての方が同様の経過をたどるわけではありませんので、ご了承ください。

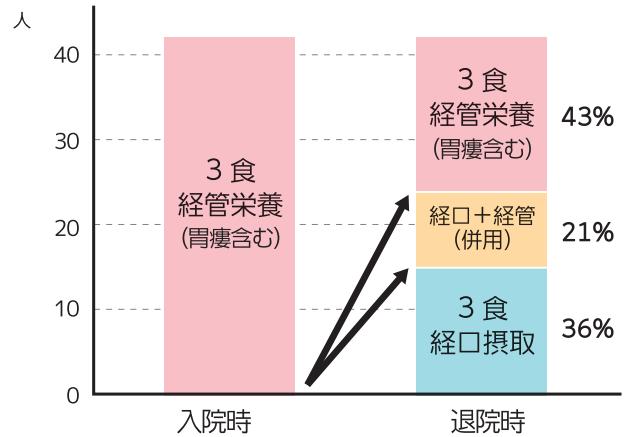
疾患別患者数 (576名)



※ その他整形疾患…変形性関節症術後、頸椎症術後、脊柱管狭窄症術後、脛骨高原骨折術後等
 ※ その他神経疾患…脳膿瘍、脊髄腫瘍、髄膜炎、脳炎、脳症等

経管栄養の改善 (42名)

※ 入院時3食経管栄養の方42名のみ

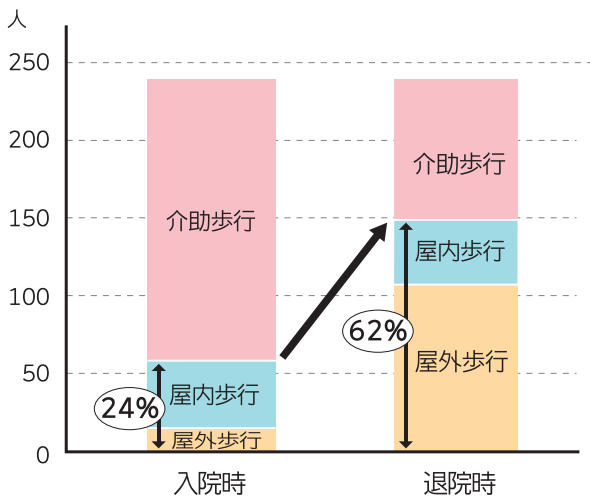


※ 嚥下グレード1～3を経管栄養、4～6を経管+経口、7～10を経口摂取とした。

※ 入院時に意識障害のあった方もすべて含む。

経管栄養とは胃まで入った管に必要な栄養や水分を注入すること、経口摂取とは口から食事をとることをいいます。

歩行の改善① (脳血管障害：240名)



※ 屋内を監視または口頭指示で50m歩行可能な状況を屋内歩行、屋外を監視以上で歩行可能な状況を屋外歩行、手つなぎ歩行以下を介助歩行とした。

※ %は屋内歩行+屋外歩行の数字を示している。

歩行の改善② (大腿骨頸部骨折：58名)

※ 受傷前に屋外歩行可能であった58名のみ

